

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和5年度報告)

- 1 被害防止計画の特徴等
- ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ、タヌキ、ヌートリアを対象としており、鳥獣被害対策実施隊員による有害捕獲を積極的に実施する。
また、市街地周辺に設置している侵入防止柵の管理や地域住民と協力して煙火によるサルの追い払い活動を積極的に行うこととなっている。
- 2 事業効果の発現状況
- 捕獲技術に関する講習会を実施し、捕獲技術の向上が見られ、少ない実施隊員で、一定数以上の成果をあげている。
- 3 被害防止計画の目標達成状況
- 全体的な達成率は70%以上になったが、個別の項目ではサルの達成率がマイナスの結果になった。
- 4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地 域	実施年 度	対象鳥 獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開 始	利用率・稼 働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	
										被害金額(万円)			被害面積(a)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
小豆島町鳥獣被害防止対策協議会(小豆島町)	小豆島 町	3	ニホンザル	サル捕獲用わなの購入	10基	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和4年3月	100%	令和3年度の捕獲頭数は25頭で、捕獲わな購入後の令和4年度は33頭になった。昨年度よりも8頭多く捕獲した。	141	120	143.9%	550	90	292.1%	猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を実施している。また、農地を守るための侵入防止柵をつける農家が増えたため、イノシシやニホンジカの被害件数が減少した。しかし、ニホンザルは捕獲や被害防止が難しく、小豆島全域に群れが拡散されたため、被害数が増加した。今後は、ニホンザルの捕獲に力を入れ、被害軽減につなげていきたい。	サルは捕獲対策で被害軽減につながりにくい動物である。したがって単に捕獲の強化で解決しようとするのではなく、地域住民参加による集落ぐるみの追い払いを柱とした対策の強化や侵入防止柵の適切な設置、放置果樹の除去などを組み合わせた総合的な対策が必要である。地域住民の主体的な取組みを推進することでサルの被害防止につなげてほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	
		2	ニホンジカ	狩猟免許試験予備講習会受講料補助	2名	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和2年9月	100%										狩猟免許取得に要する経費を補助することにより狩猟免許取得者の増加につながる。
		4	ニホンザル	狩猟免許試験予備講習会受講料補助	2名	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和4年9月	100%										
		5	カワウ	イノシシ	タヌキ	ヌートリア	令和5年7月	100%										
		2	ニホンジカ	初心者狩猟講習会講師料	1式	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和2年11月	100%	初心者狩猟講習会を開催することで、鳥獣保護管理法等の遵守や捕獲技術の向上につながる。									
		3	ニホンザル	初心者狩猟講習会講師料	1式	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和3年12月	100%										
		4	カワウ	イノシシ	タヌキ	ヌートリア	令和4年11月	100%										
		5	ニホンザル	初心者狩猟講習会講師料	1式	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	令和5年11月	100%										

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
3:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。